

韓・日合同夏季研修会によせて

韓国ひらかれた教育研究会会長

殷容基

長い間の話し合いが実を結び、今回ソウルで日本個性化教育研究連盟、韓国ひらかれた教育研究会共同主催の合同夏季研修会を開く事を喜ばしく思います。

個性化教育研究会とひらかれた教育研究会の名称自体はやや異なった響きをあたえてくれるので、事情に詳しくない第三者にはこの二つの研究団体が研修会を共同主催するという事が奇異なものに見えるかも知れません。

しかし、この二つの研究団体は新しい時代を生きていかねばならない子供達に最も必要な糧を与えてやるために新しい目標意識と方法論を打ちたてようとしているということ。そのために昨日まで当然なものとしてうけいれられて来た教育的困習に身をもって挑戦している点。お上や有名な教育理論家の音頭取りによるものでなく毎日子供とともに生きていく現場教育者たちによって盛り上がりつつ来た教育改革運動である点などから見て、決して異なった性質の団体ではないと私もは考えていますし、おそらく日本側もそういう風にとらえて下さっているのだと思っています。

日本と韓国は長い間同じ東洋文化圏の中で育ってまいりましたし、若干の時間的過程的差異はありますが、その近代化、現代化の様相において大きな共通点をもっております。

それがため、両国の教育界も同一の学制を使っていること意外にも非常に多くの問題を共有しております。

しかし、二つの社会が全く同一なものではありませんし、その社会的問題意識も同一なもの

ではありえません。

それがため、日本の教育者たちが子供一人一人を「個」としてとらえ日進月歩のハイテクをどのようにして教育の内包に取り入れていくかに関心を集中し、韓国の教育者がそれに加えて新しい時代の共同体づくりの主役育成に力を注ぐことに努めているとしてもこれはごく自然な事であると考えます。

そのような、ささいな差異あるにもかかわらず、ここに集まる我々は二十一世紀を目前に迎えている時点で未来思考的な教育をやろうとしている点において立派な同志の集まりであります。

韓国は、この新しい教育改革運動の出足においてやや遅れていますし、この教育を支付する財政的条件もはかばかしくありません。

けれども一方、我々の教育に対する社会的支持は非常に高まっておりますし、今までこの教育の展開にブレーキの役割をしていた韓国の教育課程（学習指導要領）も大膽に改定されるなど希望的な動きがなくてはなりませんので、五年後、十年後のこの教育の発展に期待をかけて下さってもよろしいと考えております。

日本側の会員方にとっては韓国の「開かれた教育」の現場がおぞましく思われる点が多々あると思われませんが、今申し上げたような状況を参酌され御観察下さるようお願いいたします。

なお、このような性格の国際集会は主題の掘り下げ以上に人々との相互理解がもつと重要な収穫になるものと思いますので心の窓を開いて語りあつて下さる事をお願いいたします。

韓・日合同夏季研修会

平成5年7月27日(火)~28日(水)

泳薫国民学校 VICTORIA HOTEL

☆第1日 7月27日(火)

泳薫国民学校

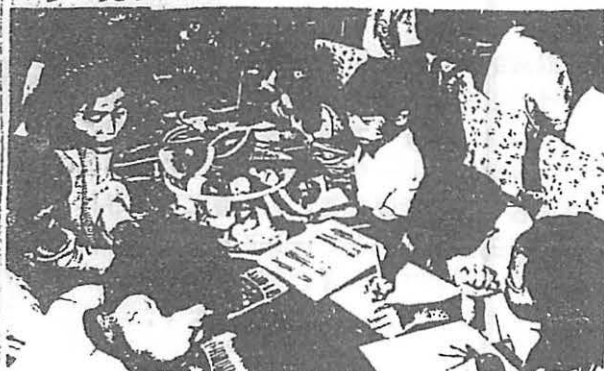
午前

・公開授業 (小学校全学級)

外観のすばらしい学校で歓迎の暖かいまなざしを受け、研究会場に入った。もともと普通教室であつたというスペースが明るく、有効に使われているのにびっくりした。教育機器、移動黒板、水飲み施設などをはじめ、ワークシート入れ、座卓など豊富な用具をじょうずに使い、コーナーを有効に利用できる学習環境が整っていた。

研究授業を通して感じたことは、1年~6年まで多様な形態で取り組んでいたこと。課題に応じたグループ学習が多く見られたこと。全学年でティームティーチングが実施されていたことなどである。

全体的には、非常に落ち着いた雰囲気の中で静かに、目的を持って学習に取り組んでいる子どもが多く見られた。



話によるとこの学校では、午前中に教科の学習、午後は芸能教科の学習を多くして、午前中は仕事をしているお母さんも順番でボランティア活動として子どもたちの学習を支えているそうだ。言葉がひとつも分からないので閉口しながらだが雰囲気で大くさん学ぶことのできた意義あるひとときであつた。(橋本)



午前中は、公開授業の後、地下の食堂において開会式が開かれた。日韓合わせて300名余の参加者と報道関係者で、広い会場がいっぱいになった。式では、両会長のあいさつ、泳薫国民学校長の学校紹介があつた。

午後

講演「日本における 学校建築計画の 系譜と展望」

東京都立大学工学部 建設学科 教授

上野 淳

1980年代には、100~200校であつた多目的スペースを有する公立小・中学校が、現在では4000校にも達している。これは全体の1割に当たり急激な速さである。オープンスクールとは子どもの心も自由にするものである。学校は、どの場所もすべて学習する場所として設計すべきである。等、熱の入った講演に韓国の先生方も目を輝かせて聞き入っていた。

質疑も活発でいくつかを紹介すると、
質・コンピュータスペースをどうするか。
答・どこにでもコンピュータが置いてあるという学習環境が大切である。

質・生涯学習との関係は。

答・コミュニティー化、社会施設といつしよに作るなど今後の課題である。

質・建設コストはどうか。

答・一般的には変わらない。間仕切りがなくてすむから安くなる分、家具やメディア、間仕切りの仕掛にお金がかかる。

などであつた。

講演「日本における個性化教育の進展」

国立教育研究所 室長

高浦 勝義

第1日目の午後に、「日本における個性化教育の進展」という演題で、高浦先生からお話があった。レジュメは既にハングルに翻訳されていたので、韓国の先生方にも十分理解してもらえたものと思う。講演の内容は、個性化教育が求められるようになった背景とその主なねらい、そして我が国における実践経過等についてであり、最後に卯ノ里小学校の実践内容をビデオで視聴して終了した。約1時間の講演であったが、韓国の各地から集まった大勢の先生方が熱心に聞き入っていたのが印象的であった。

(河合)

☆第2日 7月28日(水)

VICTORIA HOTEL

講演会

講演「韓国教育の展開過程」

韓国 弘益大学 教授

金 恩山

金恩山教授の講演は、韓国教育の歴史と現状についてでした。日本から出席した会員の為にわざわざ作成された、日本語に翻訳したリーフレットを基にしたお話は、とてもわかりやすい内容でした。

同時に、儒教との関わりや教育の近代化、そして日本の韓国支配と、日本との共通点や日本との関わりを深さを、教育の立場で確認しました。

韓国の教育を、儒教的教育・ハングルの発明・近代教育の導入・日帝支配下の教育・解放後の教育と分けての講演でした。

特に、日本の支配下における韓国の教育の箇所では、支配された民族の立場からの、冷静かつ厳しい分析をされており、私たち日本から参加者に強い印象を与えました。

歴史の中で教育の果たした役割を、韓国の教育史を通じて知り、教育の方針と内容がいかに国や国民に大きな影響を与えるかを、改めて考えさせられた中身の濃い講演でした。(佐久間)

講演「韓国におけるオープン教育」

韓国教育開発院 博士

李 容淑

韓国教育開発院は、日本の国研+放送大学にあたり、韓国における教育研究・開発・啓蒙の中心地である。李容淑氏は、そんな韓国教育開発院におけるオープン教育推進の立て役者である。講演では、まず韓国におけるオープン教育の歴史と現状が語られ、続いていくつかの評価研究が紹介された。我国同様韓国でも、近年加速度的にオープン教育の推進が図られ始めており、万事追いつく風のようなものである。しかし、氏はこのような時だからこそ、思想の転換のないわべだけの実践や、準備不足のままの見切り発車の実践の蔓延に注意すべきだとし、多様な学習材の開発、教員養成と現職研修の充実、人事面での行政的配慮の拡充など、オープン教育推進のための基盤整備が早急に必要であると指摘した。(奈須)

韓・日合同夏季研修会日程

7月27日(月)

・公開授業 泳薫国民学校

・開会式

・昼食

・講演 東京都立大学 上野 淳(日本)

・講演 国立教育研究所高浦勝義(日本)

7月28日(火)

・講演 弘益大学 金 恩山(韓国)

・講演 韓国教育開発院李 容淑(韓国)

教職研修総合特集No.107 A5判/定価1,500円(税込)

オープン・スペース 読本 ・スクール

加藤幸次・上智大学教授指導のもと、オープン・スペース・スクールの実践的展開を1冊にまとめました！ オープン・スペースの活用図を付し、ハード・ソフト両面から立体的にアプローチ。ティーム・ティーチングとオープン・スペースの活用により拓かれる個性化教育への道を平易かつ具体的に解説した本書は、まさに待望の読本です。

▶主要目次◀

- (I) オープン・スペース活用のための基本的知識 10項目
- (II) オープン・スペースを活用する学習展開モデル 9項目
- (III) オープン・スペースの活用と学習環境・学習材 6項目
- (IV) 実践に学ぶオープン・スペースの活用 小学校・中学校 全国の先進的実践校18校の実践

今なお、北と対峙する国

研修会を終えて帰国の飛行機を待つ時間を利用して、板門店を訪れた。

ソウルから、バスで二時間足らずのこの地は経済の高度成長をひた走る韓国ソウルの喧嘩からは、およそかけ離れた、緑なす大地が続く静かな所である。しかしよく見ると、所々に軍服の人が見え隠れしているし、38度線を境として、人々の通行を決して許さない鉄条網が延々と続いている風景である。そういえばソウルからの道(統一路という)には、いつでもボタン一つで道路を破壊する装置が何方所も設置されていた。

イムジン川にかかる自由の橋は、名前とは反対に半世紀近く北と南の自由を分断し、誰も渡ることのできない不自由の橋である。ガイドさ

—— 板門店を訪れて ——

んの説明によれば、「離散家族」の人々が、生死も不明な北の肉親を想い号泣するという。歴史の運命とはいえ、韓国のあるいは北朝鮮の人々の悲痛な苦しみと叫びがここに押し込められているようでもある。

それにしても、みはるかす延々と張りめぐさされている鉄条網！。これこそ、人間が創造した最も愚なるものではないかと思われる。

冷戦時代が終焉し、世界は今、急速に一つになろうとしている。しかし、今なお北と対峙し緊張する韓国の現実を見た時、有意義で楽しかった旅の熱が一気に消えていく思いであった。

(中澤)

カムサハムニダ

おそらく日本と韓国両国の教育史に残るビッグイベントになるであろう、夏季研修会が終わりました。

韓国の開かれた教育研究会の皆様や朴先生を始めとする泳薫国民学校の関係者の皆様には、本当にお世話になりました。

日本から参加者の為に、わざわざ泳薫国民学校の夏休みの開始を遅らせていただいたり、講演をなさった先生方が日本語に翻訳されたリーフレットを用意して下さったりと周到な様々な準備に感謝の念で一杯です。

また、韓国の参加者も、こちらの予想をはるかに上回る数になり、そして、参加者の方々のオープン教育への情熱も、私たちの予想を越えたものでした。これでは、韓国にオープン教育の実践で抜かされてしまうという話も、事務局の中から出た位でした。

改めて、今回の研修会を準備し韓国の関係者の皆様に、この紙面を借りまして厚くお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

カムサハムニダ。

(庶務部長 佐久間 茂和)

名簿と研究会案内をお届けいたします。

本年度の名簿ができましたのでお届けいたします。会の円滑で合理的な運営のために、1年間会費を納めなかった会員の方100名近くの方の名前を、名簿から削除させて頂きました。それにも関わらず新しい会員の方も多く、約600名(593名)の会員・団体会員の方が会に所属いたしております。ご不明な点がありましたら、事務局までご連絡下さい。

また、事務局が把握しております範囲で、各校の研究会の日時をお知らせいたしました。細かいことは、該当校にお問い合わせ下さい。

本連盟の事務局は、地域組織も含めまして、ボランティア活動で運営されております。連絡や事務が行き届かない点多々あるかと思いますが、ご了承下さい。

<事務局への問い合わせ・連絡先>

〒115 東京都北区赤羽南 1-16-2-504
03-3903-4780 庶務部長 佐久間 茂和

全国個性化教育研究連盟会報 第26号

平成5年9月4日発行

編集責任者 事務局長 高浦 勝義

編集 広報部 太田 始